

3 平成30年度 発掘調査の成果

- ◇トレンチ1では、堀切Aと土塁Aの基礎とみられる部分を検出しました(写真1)。土塁と堀切が組み合わさり、南北へ伸びていたと推定されます(下図)。
⇒柏木城跡曲輪4東端部と、南側の山斜面との間を堀切と土塁で遮断することで、戦を画していた伊達政宗の軍勢の侵攻を防ごうとする意図がかがわれます。
- ◇トレンチ2では、堀切Bと土塁Bの基礎とみられる部分を確認しました(写真2)。
⇒曲輪4切岸から延びる警備・堀切と土塁が、曲輪近くまで伸びているようです。
- ◇堀切A・土塁Aと、堀切B・土塁Bが「くい違い」となっており、堀切(赤点線)がその間を折れ曲がっていることが確認されました。
⇒堀道が戦国時代柏木城の遺構に規制されていることから、この道が、柏木城に伴うものであり、道筋も戦国時代当時からほとんど変わっていないものと思われる。
⇒堀・土塁で挟んで「くい違い」状の出入口とし、細く複雑化することで、道を往來する人の監視や防犯性を高めたものと考えられます。
⇒柏木城跡主郭周辺の土塁が、南側に手厚いのは、この道を意識してのことと思われる。

これまでの調査から、柏木城跡は遺構の残りがよく、残された遺構群の配置や地形との関連などから、会津侵攻をもくろむ伊達政宗に備えた城郭構造や、米沢道の城内への取り込みによる「閉」的構想等の具体像を知ることができる遺跡であることがわかってきました。また、曲輪・堀切・道路の内側へ石積を大規模導入することによって、家臣・旗本・領民へ武威を示していたことも推測され、中世会津領主重名氏の領国防衛の考え方がうかがわれる城郭遺跡として貴重です。また、16世紀後半のごく短期間(文献からは天正13年(1585)から17年頃(1589))が整備・機能の盛期および最終段階であることから、その頃の重名氏による築城技術を知る上で稀有な遺跡であり、東北地方南部・会津地方の指標城郭としても代表的なものと考えます。

【柏木城跡へのアクセス】



柏木城跡は
私有地です。
見学の際はマナーを
守りましょう。



発行・お問い合わせ先

北塩原村教育委員会

《平成31年3月29日刊行》

〒966-0402 北塩原村大字大塩字下六郎屋敷21-34番地

TEL.0241-23-5236

印刷/三洋印刷株式会社

平成30年度

柏木城跡の 発掘調査



1 柏木城跡とは・・・

柏木城は戦国時代の終わり頃、会津の重名氏が築城した山城で、米沢の伊達氏による会津侵攻を防ぐ目的で造られたと伝えられています。天正13年(1585)、伊達政宗の松原路取からはじまった会津侵攻の際、大塩に城があったという記述があり(政宗記)、今からおよそ430年前頃には存在していました。

城内には多彩な「石積み」による施設が残されているのが特徴で、中心部の出入口(虎口)や土塁の壁、区画施設など、多くの場所に石積みの遺構がみられます。



2 発掘調査の目的

北塩原村では、村内に多数残されている戦国期の城館跡や江戸時代の米沢街道・鉱山跡など、歴史的な遺跡群を将来にわたって適切に保存・整備・活用していくために、平成20年度から有識者による検討委員会を設け遺跡の検討や活用への助言を得てきました。

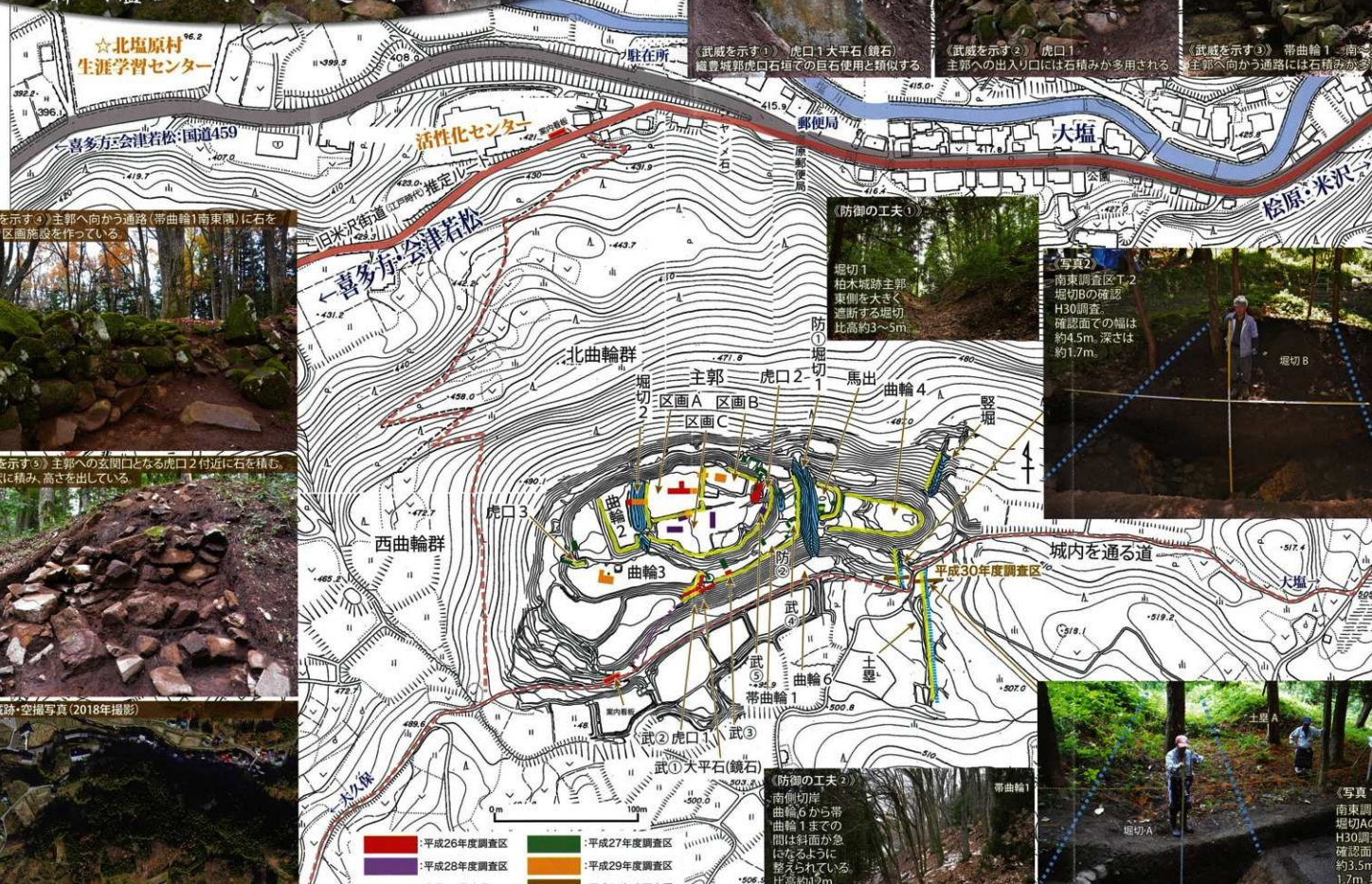
平成26年度からは、柏木城跡の内容をより詳しく調べるため、北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会のもと、地権者の方々や地元の皆様のご理解とご協力を得て発掘調査をはじめました。発掘調査は今年で5年目となります。

柏木城跡は現在、北塩原村指定史跡です。村では将来的に国の史跡指定を目指しており、指定に向けて、文化庁・福島県教育委員会文化財課のご指導も受けています。

北塩原村教育委員会

平成30年度 柏木城跡の発掘調査

轟け、蘆名の“武威”!! 伊達政宗に備えよ!!



【北塩原村教育委員会】